

故郷の妻へ、戦地ビルマからの手紙③

会期：令和7年9月2日（火）～30日（火）

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

●9月展示：昭和19(1944)年5月～12月

従軍して1年が経ち、肇さんから梅子さんへの手紙には「筑後路の田植の盛りを眼に浮かばせ」(No.28)などと綴られ、故郷を懐かしむ心情が窺えます。

6月以降、日本本土でも米軍のB29による本格的な空襲が始まり、サイパン島で日本海軍が玉砕するなど、戦況は急速に悪化していきました。ビルマ戦線もインパール作戦失敗後、兵站病院は負傷兵を収容しきれず、軍医の肇さんも厳しい状況にあったと推察されます。しかし手紙には「不惜身命」(No.28)、「意気衝天」(No.29)との気概を示し、実情を書くことはできませんでした。「話はいつも食物の事ばかり。刺身、天プラ、等々」(No.30)とは望郷の念のみならず、深刻な食糧事情の表れだったのかもしれません。

現存する手紙の最後は12月22日付けで、翌年5月25日に肇さんが戦死した後、6月2日に梅子さんのもとに届きました。「又便りす」と記されています。

●西原肇氏写真(表・裏)

ビルマに向けて小倉陸軍病院を出発する3日前に撮影されたものです。写真の裏面に「昭和十八年五月十二日写ス、同月十五日壮途に着く」「二十年五月廿五日戦死、ビルマ方面ピュー、シッタン川合流点北方七軒ザアロツクイの戦闘に於て」などとある



●会期と内容

本展では、令和5年11月29日付けで本市が寄贈を受けました「宮原美奈子氏寄贈資料」のうち、田主丸出身の医師で戦地にいる西原肇さん(1915～45)から、故郷の妻梅子さんに宛てた手紙を中心に、軍事郵便35通を3回に分けて初公開します。

①令和7年7月3日(木)～29日(火)

：昭和19(1944)年1月～4月／No.1～12

②令和7年8月1日(金)～31日(日)

：昭和19(1944)年1月～4月／No.13～24

③令和7年9月2日(火)～30日(火)

：昭和19(1944)年5月～12月／No.25～35

